

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4073400485		
法人名	ハッピーナカオ株式会社		
事業所名	グループホーム はなみずき		
所在地	福岡県太宰府市水城6丁目15-28 (電話) 092-918-8766		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 29 日	評価結果確定日	令和 4 年 1 月 13 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

静かな住宅街の中にあり、敷地も広く、畑を作って野菜等を植えている。できたら収穫し、毎日の食卓にお出ししている。利用者同士の触れ合いや、職員とのふれあいを大切にすることを常に意識し、フロアのテーブルをまとめてしている。また、日中3人の職員の内、必ず1人はフロアにるようにして、利用者との会話を大切にしたり、利用者同士のコミュニケーションが円滑にいくようにしている。地域との交流では、自治会に加入し、地域主催の防災勉強会・防災炊き出し会に参加させて頂いている。また、施設の防災訓練には、地域の方が多数参加し、共に訓練を行い意見交換している。施設からは、地域の方々に介護技術・老人ホームや認知症について講習会を行い、地域との交流を大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 11 月 25 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な住宅街にある2階建ての事業所で、2階のベランダからは大野城市・太宰府市が一望出来る。敷地内には自家農園があり、季節ごとに楽しめるように様々な果物を育てている。開設当初から現在まで地域住民との交流を大切にし、意見等があれば取り入れるよう努めている。

災害対策訓練は特に夜間想定訓練に力を入れ、職員共同で訓練を実施しており、備蓄品を備え、全利用者の排泄関係・衣類も個別に準備をしている。コロナ禍のため、外出する機会が少なくなったが、事業所内の共有箇所で工夫し、皆様で過ごされている。感染対策で窓越しで面会していただいている。職員は出勤時に必ず検温・手指消毒を実施している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、毎日の朝礼の際に、唱和している。利用者のケアの方向性で迷いが生じた場合に、理念に添っているのか振り返るように心がけている。	地域と利用者の思いを繋げるという視点の理念を玄関・ホールに掲示して、朝礼で全員で唱和している。コロナ前は管理者が地域住民と意見交換を行い、法人全体で検討して対応を行っていた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入し、地域主催の防災勉強会や防災炊き出し会、夏祭などに参加していた。また、自施設の火災訓練に地域の方も参加し、意見交換も行っていった。地域の老人会にて、自施設職員による介護関係の講習会も実施していた。コロナ禍により去年から中止する事もあった。	自治会に加入しており、町内活動を把握して必要な時には参加している。町内公民館で介護サービス全体に関わる相談窓口を設置する等、介護技術の指導・相談をしていたが、現在、コロナ禍のため地域との交流は中止としている。落ち着いたら設置できるように準備は整えている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会にて、老人ホームの種類と認知症についての講習会を公民館でおこなったり、介護技術講習会を行ったりしていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族様、地区自治会、市役所、の方に参加していただいている、事故報告やヒヤリハット報告・状況報告・最近の施設での取り組みについての報告などをおこなっていた。また、行事報告やその他、自施設の連絡事項を伝えている。参加者から出た意見は議事録に残し、検討している。	運営推進会議はコロナ禍のため中止しており、事業所内での会議を開催している。議事録も整えられており、職員間で出た意見についてはサービス向上に繋げている。	事業所内での会議の内容を運営推進会議構成員に配布し、第三者からの意見を取り入れることで客観的に検討することを期待する。さらに、アンケートを同封する等、外部の意見も参考にして欲しい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所職員の方々に運営推進会議に出席していただき、入居者の状況や自施設の取り組みを伝えている。また、自施設を運営する上で、疑問点がある場合は相談させて頂いている。	毎月、入居状況をFAXで報告している。家族への対応や事業所体制等について相談した事例もある。コロナ禍のため役所に出向くことはないが、電話での連絡体制は構築している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常時施錠しないようにしている。また、ミーティング等で利用者の活動性や認知症の周辺症状について検討し、できるだけ不要な精神薬等は外すように随時検討している。	月1回の各階ミーティング・年1回の法人合同での身体拘束に関わる研修を実施している。身体拘束指針に基づき身体拘束委員会も設置している。研修資料は職員全員に配布して「常に身体拘束をしない」ケアに取り組んでいる。入居契約時も資料を用いて家族にも説明している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修にて理解を深めている。管理者が夜間を中心に利用者の状況や職員の状態を、申し送りやユニットリーダーを通して把握し、助言、注意を行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居契約説明の際に、ご家族にパンフレットをお渡しして説明をしている。また、家族会でパンフレットを通して再度ご紹介をしている。権利擁護に関する外部研修を受けて内部研修にて全職員で学習していきたい。	入居契約時に権利擁護パンフレットを活用しながら説明している。年1回、権利擁護に関する内部研修を行い、研修記録を作成している。成年後見人を招いて内部研修を開催することもある。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際には、重要事項説明書・入居契約書の各項目に添って説明し、説明後は各書類ごとに疑問点がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際に、要望を聞くようにしている。また、2ヶ月に1回お送りしている状況報告書に、ご意見や要望を記入する欄を作り、玄関に設置している意見箱に投書できるようにしている。	2ヶ月に1回、利用者現状報告を家族に送付している。食事・入浴・排泄・精神面・日常生活状況等を記載している。意見欄を設けており、自由に記載して玄関の意見箱に投函できる。家族会は毎年9月の敬老式に併せて行われている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は、職員全員の意見を聞くため、個別に検討用紙に記入して頂いている。また、業務の変更や、新しく何かに取り組む際は、各ユニットリーダーに相談して、現場の意見を聞くようにしている。年に2回、法人部長と管理者で職員一人ずつ面談を行い、会社に対しての要望や意見を聞く機会を設けている。	各フロアで月2回ミーティングで職員の利用者に対する意見や提案を聴いている。事前にスタッフにアンケートを配布し、意見を収集して、その意見をミーティングの議題にしている。年に2回は法人管理者と事業所管理者が人事評価表を用いて職員と面談を行い、意見や要望を聞く機会を設けている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自施設独自の職員評価表に基づき、年2回の面接を実施している。その際にその職員の良い点・改善点・悩み事・次回面接までの自己目標の話をしている。職員の努力や実績に応じて、パート常勤を正社員常勤に昇格している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢制限などなく、面接の印象や質問に対する答えなどで検討している。職員がプライベートでも充実できるよう、勤務表を作る際は、公休希望を聞き入れている。また、月の途中でも、家庭やお子様の学校行事などがあれば、シフトの交代ができるよう配慮している。	職員の採用にあたっては、年齢・性別を条件にはしていない。未経験者には、キャリアアップを活用して資格取得に力を入れている。管理者は職員のプライベートにも配慮し、勤務日の調整を行い、シフト管理がなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権に関する外部研修を受け、伝達講習として職員に周知しなくてはいけないがまだ不十分である。	毎月第4火曜日に内部研修を実施し、全職員が人権に関する研修に参加している。研修実施報告書を作成している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、勉強会を開催し、担当職員にテーマを決めて頂き、自己学習して発表する機会をつくっている。外部研修は経験に応じた研修内容を選び、随時受講している。認知症実践者研修については、1人ずつ受講していただくようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、参加できる職員だけ協議会の集まりに参加し、他事業所と交流する機会を設けている。しかし、積極的に交流を持っているとは言えない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の表情、声かけにて不安なことがないか聞くようにしている。また、御本人のささいな言動を介護日誌に細かく記載するように心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際に、ご家族が今まで、自宅で介護される際に困っていたことや、施設でどのような生活を希望されるのか聞くようにしている。入居前に病院や施設に入所されていた場合は、入所先のソーシャルワーカー・ケアマネジャーに連絡して情報収集している。居宅におられた場合は、担当ケアマネジャーから情報収集している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に御本人とご家族と面会をして、情報収集し、入居時にまず支援しなければならないことが見極められるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の現在の能力を把握し、日常生活における食事の下ごしらえ・食器拭き・片付け・洗濯もの等の家事や、共同スペースなどの季節に応じた飾りつけ、毎月の壁画作りなどを職員とともにし、過剰な介護にならないようにしている。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の衣類の衣替えや、クリーニング・生活用品の購入など、身の周りのことをご家族と相談している。また、ご本人のストレス緩和のため、窓越しではありますがご家族様と面会をされ会話を楽しまれるようにつとめている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙があればご本人にお伝えしたり、お返事したりの支援を行っている。暑中見舞いや年賀状作成の支援もおこなっている。ご家族やご本人の要望にあわせて、入居前のかかりつけ病院の受診等もしている。	入居時に本人の生活状況や交友関係の情報を収集し、基本情報シートを個別ファイルに保管している。全職員はファイルを確認し、情報を共有している。友人や家族からの手紙などの返信は、職員と一緒に作成している。コロナ禍で外出を中止しているため、地域の写真を用いて利用者と会話し、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、フロアに出てきて頂き、利用者同士の会話や各種のレクリエーションに取り組んでいく事で孤立化を防いでいます。職員はフロアを空けないように意識し、認知症等により会話がかみ合わない場合は、職員が間に入って仲介している、寝たきりの利用者も日中必ず離床時間を設けて他利用者様と過ごして頂いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係性を維持できるように施設で暮らしていたときの写真をお送りしたり、相談されると必要に応じて対応をとる様に心掛けています。差し入れや物品の寄付なども頂いたことがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴、家族からの聞き取り、趣味嗜好を参考にご本人の思いや意向をくみ取る様にしている。ただ認知症の進行に伴いまとまらない場合は過去の思い、家族の意向を重視するように心がけている。	職員は利用者とのコミュニケーションや利用者の言動、表情から意向の把握に努めている。意向の表出が困難な利用者には、まず、本人の関心がある話題を提供することで、利用者の意思が表出しやすくする工夫をしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、職歴、生活スタイル、家族との関係性について入居前の居宅ケアマネや地域包括支援センターの職員との連携により把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にバイタルチェックを行い日々の状態に努めている。心身上程が低下しないように生活歴、既往歴、服薬状態を参考に現状把握に努めている。2週間に1回の往診時、対応があれば随時先生に相談を行い、急変時はその都度、報告、相談を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受けもちとケアマネジャーが日々の実施について相談したうえでチーム全体で計画行いモニタリングを検討している。介護、看護それぞれの立場や視点に加え家族からの情報不足分についても意見交換して計画的に活かしている。	介護計画は利用者の状態の他、利用者や家族の要望を踏まえ具体的に作成されている。各職員はケアを通しての気づきを「ケアプラン検討用紙」に記入している。介護計画担当者は、医師や関係者の意見、気づきを基にモニタリングシートを作成し、3ヶ月一度ミーティングで見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子には観察したことや言動をそのまま記載する事を大切にしている。介護者の気づきや工夫、提案については申し送りノート活用しており実践につながる様にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対策をしながらも家族との面会、季節ごとの行事、緊急時の受診を行っている。日々の様子については写真として家族に渡すとともにタイムリーに説明を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナのワクチン注射がスムーズに接種出来る様に行政と連携して行った。地域資源についてはウェブサイトを活用し情報交換を行える環境を整えて地域の交流が困難な状況に対応出来る様に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自施設の協力病院とは、24時間365日電話での相談は可能医師から直接指示や投与を受けている。また入居者が元々通院していた病院等へはご本人の体調や都合に合わせ、定期的に通院する様に支援している。	利用者は連携する医療機関の往診を利用しているが、本人や家族の希望があれば、他医療機関への受診を支援している。受診には職員が同行し、受診後の情報は申し送りノートで共有され、家族に受診結果を伝えている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、気づいた事は、その都度看護師に報告し不在の時は、共有情報を記入するノートに状況を記載したり、緊急時には電話で確認したりしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された場合又緊急入院に備えご本人の情報をこまめに基本情報を医療関係に渡している。（1日/月情報に誤りがないか確認している）又入院中も入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り合い経過の把握と退院後に備え情報を共有している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りを行っていない為、重度化又高度又は常々の医療行為を必要とする場合対応が困難である。上記早い段階から家族やキーパーソンにはお伝えし、主治医と医療方針やここで可能な対応を常に観察し利用者様にとって出来る限り良い状況で過ごして頂く様支援を行っている。	重度化対応・終末期ケア対応指針があり、利用者・家族の意向を尊重するものとなっている。事業所は家族に可能な対応について説明し、同意を得ている。重度化に応じて家族や関係者全員で繰り返し話し合いを行い、チームで取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出勤時は入居者様の様子をバイタル以外からも読み取る様にしている。急変は急に起こるのではなく数時間前から異変が起こっている為、変だなど思った時はスタッフで情報を共有している。又実際起こった場合に備え緊急搬送用の用紙に記入し用意直ぐ持ち出せる様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成しているが年2回現在はコロナ禍で外部からは接待は難しいが独自に訓練を行っている。又各々訓練に参加し、知識を高めている。	事業所は年2回、様々な災害を想定した避難訓練を行っており、避難経路や避難方法などについて消防署の指導を取り入れ、近隣住民の協力のもと夜間設定を中心に行っている。非常用備蓄の食料や飲料水、備品はリスト化し、個人別バッグには季節に応じて衣類などを詰め替え、いつでも持ち出せるよう準備している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際は、周囲へ配慮し声の大きさや言葉を選び耳元でお声かけしている。居室のドアやカーテンを閉め、見守りの際も本人からは見えないように配慮している。職員間で情報共有する際、排尿のことを「1番」排便のことを「2番」と呼ぶようにしている。また、利用者のことについて話すときはイニシャルを使ったりしている。	各利用者の居室にトイレがあり、排泄時のプライバシーが守れるようになっており、加えて配慮した声掛けや支援を心掛けている。管理者は職員にプライバシーに配慮するケアや個人情報保護に関しての方針を伝え、確認している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が不安や迷いを抱えている際には何うような声かけをし傾聴し一緒に物事を進めている。御本人の表情を観察して、遠慮されたり困惑していないかなど配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が各自のペースであることを念願において、職員が各利用者の訴えや動きに合わせて行動し、何らかの言動があったときは、業務の手を休め、利用者に対応するよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容はお声かけをし介助している。（洗顔・洗髪・衣服）また、外出時や行事の際は、ご本人と相談しながらおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、調理や下ごしらえ、食器の片付けなど、出来る事をして頂き自分で出来る事の喜びみんなの役に立っている喜びを感じて頂きながら職員と一緒にしている。季節に応じたメニューを取り入れ会話を楽しく食事ができるように努めている。	主食や汁物は事業所で調理し、副菜は主に業者がカロリー計算し提供している。事業所でも自家栽培の野菜を使い、利用者と一緒に副菜を調理し提供することもある。その他、行事食や利用者の体調に応じた代替食の提供もあり、日々の食事が楽しみとなるよう努めている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時チェック表を作成し食事量、水分量をチェックしている。利用者様の体重に合わせた水分摂取量を目標にしている。利用者様の咀嚼 嚥下状態を把握し食事形態を個別に変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており風邪予防も兼ねて緑茶でうがいを実地している。夜間帯にポリレント消毒を行っている。口腔内に異常がある場合は訪問歯科と連携し治療を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、それを元にトイレ誘導し出来るだけ失敗しないように努めている。時間が空くときにお声かけし夜間はセンサー時に排泄誘導を行っている。	排泄は可能な限り自室トイレで排泄できるよう支援し、見守りを行っている。また、失敗しても利用者が不安にならない言葉掛けや適切な処置を行い、誘導方法や時間を検討している。紙おむつやパット使用に関しても常に見直しており、紙パンツから布パンツへの移行が可能になった利用者もいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表で飲水状況を把握、食事は消化がよいように柔かめにしている。医師に相談の上、排便状況によって、便通の薬の調節している。便秘の際は、いつどの下剤を服用していただくか、個別に取り決めをしている。毎朝ラジオ体操を行ったり白米に押し麦、甘味にオリゴ糖を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は週3回と決められているものの、1日かけて入浴しているので、どの時間に入りたいのか出来るだけ利用者の意向に沿ったタイミングで入浴していただくよう努めている。入浴の際は音楽を流したり職員との会話を楽しくめるように努めている。	利用者の希望する時間に入浴できるようにしている。階段式の浴槽や背もたれ式のシャワーチェアを用い、体調や気分に配慮し、心地良い入浴ができるよう努めている。入浴中は利用者の好みの曲やラジオを流している。また、入浴を望まない利用者には、無理強いをせず足浴や水無しシャンプーで対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムはそれぞれ違うことを理解し、利用者の行動や表情から休息が必要な時を見極めるよう心がけている。安心して休息できるような声かけや空調管理、冬場の湿度調節とを行っている。夜間帯安眠できるように証明や音に気を配っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者全ての薬の作用・副作用についてはなるべく調べ医師の指示通りに服薬介助している。誤薬がないように、日付・いつ・名前を声に出して、飲み込むまで確認している。薬の変更になった際はスタッフと確認し間違いがないようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、食器拭き、洗濯物たたみ等ご本人の得意な作業やレクリエーションでのゲーム・カルタ取り・歌など好きな事が出来る様に努めている。又花の世話・散歩など個々の得意分野を知り自尊心を傷付けない様に利用者にあったレクを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で買い物や外食、ご家族様との外出は控えておりますが施設周辺での散歩、少数での車窓ドライブなど行い日光浴、四季折々の花見見学などを計画し、可能な限り楽しんで頂くようにしている。	敷地内の庭の散歩の他、花を鑑賞するドライブにも利用者全員を対象として時々出かけている。また、地域住民の協力でパザーに出店する為の外出を支援していたが、コロナ禍のため、現在は見合わせている。今後感染が落ち着けば、地域の祭りへの参加や利用者の希望する場所への外出、外食を行う予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、財布にお金を持っておられます。コロナ禍でお買い物の支援は不十分ですが、事前にお聴きし必要な物、お供え物等を購入しご本人の希望に添うように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。手紙の返事をスタッフと一緒に書かれたりしてやり取りされる方もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ自然の光を取り入れるように心がけている。冬は加湿するよう注意を払っている。季節感を感じられるよう、一月ごとにフロアの壁飾りを利用者様と一緒に作成変更している。台所にもスタッフと食事づくりが自由に出来る様に見慣れた家庭用冷蔵庫を設置している。	共用の空間は温度、湿度、換気に配慮した居心地良い空間である。居間にはメダカが泳ぐ水槽や本棚などがある。また、利用者が制作した季節の壁面飾りや写真が掲示され、利用者通しの会話も弾む場となっている。各部屋のドアや共用のトイレなどの表示は、利用者にとって分かりやすいものとなっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が集まるフロアには、ソファやテレビを置き利用者同士が気兼ねなく会話できるように配慮している。下肢浮腫などある方は足を挙上出来る様に手作りの足置きを使用し安楽に過ごして頂いている。雑誌などもすぐに取りれる位置にあり、1掛けのソファやテーブルなどで読んで頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、家族写真、ご位牌等ご本人の馴染みのある物を置き安心して過ごして頂けるよう工夫している。冷蔵庫もご家族の要望により設置している。施設内での誕生日会・敬老会・クリスマスなどの思い出の品なども飾っている。	眺望も良く、広々としたテラスにも出入りができる解放感ある居室となっている。ベッドやクローゼットは好みに合わせて配置変えが可能となっている。また、使い慣れた家具や日用品の他、位牌やぬいぐるみも持ち込まれ、居心地良い居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者をご自分の居室が理解できるよう、居室入り口に目線の高さに合わせて、手作りの表札を設置しベッド、棚の位置、トイレ洗面への動線も安全でストレスのない配置をおこなっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念は、毎日の朝礼の際に、唱和している。利用者のケアの方向性で迷いが生じた場合に、理念に添っているのか振り返るように心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入し、地域主催の防災勉強会や防災炊き出し会、夏祭などに参加していた。また、自施設の火災訓練に地域の方も参加し、意見交換も行っていった。地域の老人会にて、自施設職員による介護関係の講習会も実施していた。コロナ禍により去年から中止する事もあった。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会にて、老人ホームの種類と認知症についての講習会を公民館でおこなったり、介護技術講習会を行ったりしていた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事故報告やヒヤリハット報告・状況報告・最近の施設での取り組みについての報告などをおこなっている。また、行事報告やその他、自施設の連絡事項を伝えている。参加者から出た意見は議事録に残し、検討している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所職員の方々に運営推進会議に出席していただき、入居者の状況や自施設の取り組みを伝えている。また、自施設を運営する上で、疑問点がある場合は相談させて頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常時施錠しないようにしている。また、ミーティング等で利用者の活動性や認知症の周辺症状について検討し、できるだけ不要な精神薬等は外すように随時検討している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修にて理解を深めている。管理者が夜間を中心に利用者の状況や職員の状態を、申し送りやユニットリーダーを通じて把握し、注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居契約説明の際に、ご家族にパンフレットをお渡しして説明をしている。また、家族会でパンフレットを通して再度ご紹介をしている。権利擁護に関する外部研修を受け、その内容を自施設の内部研修にて全職員で学習している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際には、重要事項説明書・入居契約書の各項目に添って説明し、説明後は各書類ごとに疑問点がないか確認している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明の際に、要望を聞くようにしている。また、2ヶ月に1回お送りしている状況報告書に、ご意見や要望を記入する欄を作り、玄関に設置している意見箱に投書できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際は、職員全員の意見を聞くため、個別に検討用紙に記入して頂いている。また、業務の変更や、新しく何かに取り組む際は、各ユニットリーダーに相談して、現場の意見を聞くようにしている。年に2回、法人部長と管理者で職員一人ずつ面談を行い、会社に対しての要望や意見を聞く機会を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自施設独自の職員評価表に基づき、年2回の面接を実施している。その際にその職員の良い点・改善点・悩み事・次回面接までの自己目標の話をしている。職員の努力や実績に応じて、パート常勤を正社員常勤に昇格することを検討している。職員のリフレッシュの為、会社主催で夕食会を実施している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については、年齢制限などなく、面接の印象や質問に対する答えなどで検討している。職員がプライベートでも充実できるよう、勤務表を作る際は、公休希望を聞き入れている。また、月の途中でも、家庭やお子様の学校行事などがあれば、シフトの交代ができるよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対する人権に関する外部研修を受け、伝達講習として職員の周知をしながらはいけないがまだ不十分である。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、勉強会を開催し、担当職員にテーマを決めて頂き、自己学習して発表する機会をつくっている。外部研修は経験に応じた研修内容を選び、随時受講している。認知症実践者研修については、1人ずつ受講していただくようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、参加できる職員だけ協議会の集まりに参加し、他事業所と交流する機会を設けている。しかし、積極的に交流を持っているとは言えない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の日頃の表情を観察し、いつもと違う行動や言動に注視し、声かけにて不安なことがないか聞くようにしている。また、御本人のささいな言動を介護日誌に細かく記載するように心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される際に、ご家族が自宅で介護される際に困っていたことや、施設でどのような生活を希望されるのか聞くようにしている。入居前に病院や施設に入所されていた場合は、入所先に電話して、情報収集している。居宅におられた場合は、担当ケアマネージャーから情報収集している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前に御本人とご家族と面会をして、情報収集をし、入居時にまず支援しなければならないことを見極められるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の現在の能力を把握し、日常生活における食事の下ごしらえ・食器拭き・片付け・洗濯もの等の家事や、共同スペースなどの季節に応じた飾りつけなどを職員とともにやり、過剰な介護にならないようにしている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の衣類の衣替えや、クリーニング・生活用品の購入など、身の周りのことをご家族と相談している。また、ご本人のストレス緩和、新型コロナウイルス感染症対策の為窓越しではありますがご家族様と面会をされお話を楽しまれる様に心掛けている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙があればご本人にお伝えしたり、お返事したりの支援を行っている。ご家族やご本人の要望にあわせて、入居前のかかりつけ病院の受診等も行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常、フロアに出てきて頂き、利用者同士の会話や各種のレクリエーションに取り組んでいく事で孤立化を防いでいます。職員はフロアを空けないように意識し、認知症等により会話がかみ合わない場合は、職員が間に入って仲介している。寝たきりの利用者も日中必ず離床時間を設けている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係性を維持できるように施設で暮らしていたときの写真をお送りしたり、差し入れや物品の寄付なども頂いたことがある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人やご家族より、今まで歩いて来られた生活歴や仕事・趣味などを伺い、現在の暮らしを通してご本人、家族様の希望や苦手なものの把握に努めている。寝たきりや思いが伝えられない利用者には積極的に話しかけることで、返ってきた表情や行動から意向の把握に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活ができるだけ自施設でも継続できるように、日課の散歩や花の手入れ・衣類の整理など、個人でやられてこられたように職員は見守り支援に努めている。入居前の居宅ケアマネや地域包括支援センター職員との連携により把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にバイタルチェックを行い日々の状態把握に努めている。心身状態が低下しない様に生活歴・既往歴・服装状態を参考に現状把握に努めている。2週間に1回の往診時、対応があれば随時先生に相談を行い、急変時はその都度、報告、連絡、相談を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受けもちとケアマネジャーが日々の実施について相談したうえでチーム全体で計画を見守りモニタリングを検討している。介護、看護それぞれの立場や視点に加え家族からの情報不足分についても意見交換して計画的に活かしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子には観察したことや言動をそのまま記載する事を大切にしている。介護者の気づきや工夫、提案については申し送りノート活用しており実践につながる様にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症対策をしながらも家族との面会、季節ごとの行事、緊急時の受診を行っている。日々の様子については写真として家族に渡すとともにタイムリーに説明を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナのワクチン注射がスムーズに接種出来る様に行政と連携して行った。地域資源についてはウェブサイトを活用し情報交換を行える環境を整えて地域の交流が困難な状況に対応出来る様に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自施設の協力病院とは、24時間365日電話での相談は可能医師から直接指示や投与を受けられている。また入居者が元々通院していた病院等へはご本人の体調や都合に合わせ、定期的に通院する様に支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のケアの中で、気づいた事は、その都度看護師に報告し不在の時は、共有情報を記入するノートに状況を記載したり、緊急時には電話で確認したりしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院された場合又緊急入院に備えご本人の情報をこまめに基本情報を医療関係に渡している。（1日/月情報に誤りがないか確認している）又入院中も入院先のソーシャルワーカーと連絡を取り合い経過の把握と退院後に備え情報を共有している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では看取りを行っていない為、重度化又高度又は常々の医療行為を必要とする場合対応が困難である。上記早い段階から家族やキーパーソンにはお伝えし、主治医と医療方針やここで可能な対応を常に観察し利用者様にとって出来る限り良い状況で過ごして頂く様支援を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	出勤時は入居者様の様子をバイタル以外からも読み取る様にしている。急変は急に起こるのではなく数時間前から異変が起こっている為、変だなど思った時はスタッフで情報を共有している。又実際起こった場合に備え緊急搬送用の用紙に記入し用意直ぐ持ち出せる様にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成しているが年2回現在はコロナ禍で外部からは接待は難しいが独自に訓練を行っている。又各々訓練に参加し、知識を高めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際は周囲へ配慮し声の大きさや言葉を選び耳元で声掛けを行っている。居室のドアやカーテンを閉め見守りの際にも本人から見えない様に配慮している。トイレの見守りの際にも、職員間で情報共有する際、排尿のことを「1番」排便のことを「2番」と呼ぶようにしている。また、利用者のことについて話すときはイニシャルを使ったりしている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がなされようとしている事や本人が不安や迷いを抱えている際には、伺うような声かけをし、傾聴し一緒に物事を進めている。御本人の表情を観察して、遠慮されたり困惑していないかなど配慮している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々が同じリズムではないことを念頭において、職員が各利用者の訴えや動きに合わせて行動するよう努めている。何らかの言動があったときは、職員業務の手を休め、利用者に対応するよう努めている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容はお声掛けし介助している。（洗顔・洗髪・衣服）また、外出時や行事の際は、相談しながら職員と洋服を選びおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、調理や下ごしらえ、食器の片付けなど、出来る事をして頂き自分で出来る事の喜びを感じて頂きながら職員と一緒にしている。食事の時間は音楽を流しながら会話し、ゆっくりと楽しく食事ができるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時チェック表を作成し食事量、水分量をチェックしている。利用者様の体重に合わせた水分摂取量を目標にしている。利用者様の咀嚼 嚥下状態を把握し食事形態を個別に変えている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており風邪予防も兼ねて緑茶でうがいを実地している。夜間帯にポリレント消毒を行っている。口腔内に異常がある場合は訪問歯科と連携し治療を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、それを元にトイレ誘導し出来るだけ失敗しないように努めている。時間が空くときにお声かけし夜間はセンサー時に排泄誘導を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェック表で飲水状況を把握、食事は消化がよいように柔かめにしている。医師に相談の上、排便状況によって、便通の薬の調節している。便秘の際は、いつどの下剤を服用していただくか、個別に取り決めをしている。毎朝ラジオ体操を行ったり白米に押し麦、甘味にオリゴ糖を使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴日は週3回と決められているものの、1日かけて入浴しているので、どの時間に入りたいのか出来るだけ利用者の意向に沿ったタイミングで入浴していただくよう努めている。入浴の際は音楽を流したり職員との会話を楽しめるように努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムはそれぞれ違うことを理解し、利用者の行動や表情から休息が必要な時を見極めるよう心がけている。安心して休息できるような声かけや空調管理、冬場の湿度調節とを行っている。夜間帯安眠できるように証明や音に気を配っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者全ての薬の作用・副作用についてはなるべく調べ医師の指示通りに服薬介助している。誤薬がないように、日付・いつ・名前を声に出して、飲み込むまで確認している。薬の変更になった際はスタッフと確認し間違いがないようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、食器拭き、洗濯物たたみ等ご本人の得意な作業やレクリエーションでのゲーム・カルタ取り・歌など好きな事が出来る様に努めている。又花の世話・散歩など個々の得意分野を知り自尊心を傷付けない様に利用者にあったレクを行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で買い物や外食、ご家族様との外出は控えておりますが施設周辺での散歩、少数での車窓ドライブなど行い日光浴、四季折々の花見見学などを計画し、可能な限り楽しんで頂くようにしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者ではあるが、財布にお金を持っておられます。コロナ禍でお買い物の支援は不十分ですが、事前にお聴きし必要な物、お供え物等を購入しご本人の希望に添うように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話や手紙のやり取りができるようにしている。手紙の返事をスタッフと一緒に書かれたりしてやり取りされる方もおられる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はできるだけ自然の光を取り入れるように心がけている。冬は加湿するよう注意を払っている。季節感を感じられるよう、一月ごとにフロアの壁飾りを利用者様と一緒に作成変更している。台所にもスタッフと食事づくりが自由に出来る様に見慣れた家庭用冷蔵庫を設置している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が集まるフロアには、ソファやテレビを置き利用者同士が気兼ねなく会話できるように配慮している。下肢浮腫などある方は足を挙上出来る様に手作りの足置きを使用し安楽に過ごして頂いている。雑誌などもすぐに取りれる位置にあり、1掛けのソファやテーブルなどで読んで頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、家族写真、ご位牌等ご本人の馴染みのある物を置き安心して過ごして頂けるよう工夫している。冷蔵庫もご家族の要望により設置している。施設内での誕生日会・敬老会・クリスマスなどの思い出の品なども飾っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者をご自分の居室と判断して理解できるよう、居室入り口に目線の高さに合わせて、手作りの表札を設置しベッド、棚の位置、トイレ洗面への動線も安全でストレスのない配置をおこなっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない